

八女高生としての第一歩

第69回 入学式

4月8日(火) 厳肅な雰囲気の中、入学式が挙行されました。新入生は新しい制服に身を包み、やや緊張しながらも、式に臨む態度や表情に、意気込みを醸し出していました。



新入生代表
大久保仁智さん(筑南中出身)



新入生激励
八女高応援団による



「自助と共助を学ぶ宿泊体験事業」 in 阿蘇

4月11日(金)～4月13日(日)国立阿蘇青少年交流の家における新入生全員での初めての宿泊体験事業です。研修を通して、規律を身につけ、友情や八女高生としての自覚を育みました。



英語教員指導力 向上事業

6月19日(木) 昨年度から福岡県教育委員会より指定を受け取り組んでいる事業が行われました。本校の授業は全て英語で行われ、生徒達は英語での発表やグループディスカッションなどを楽しみながら取り組んでいます。



飲酒運転防止 講演会

7月1日(火) 講師に山本美也子氏をお招きして、講演をしていただきました。「飲酒運転による被害者を出さないのは当たり前。でも加害者を出さないことが本当に大事」という強いメッセージに生徒達は心を動かされました。



<シリーズ OB紹介(第10回)>

馬場 淳次 元筑後市長

★プロフィール

昭和25年 高2回卒業
家業に就く(馬場材木店)
昭和54年 筑後市議会議員
昭和57年 商工会議所常議員
平成元年 筑後市長
平成13年 退任(3期12年)
平成15年 旭日賞受賞
平成18年 八女高泉が丘ゴルフ协会会长



私は昭和19年太平洋戦争激化の中、八女中学に入学しました。軍事訓練や学生動員が多く、食糧や物資が少なく、我々はハングリー精神と忍耐力を身につけました。戦後、学制改革により、中学4年制終了とともに高校2年に編入しました。この激動する世情の中で多感な6年間の青春時代は何物にも替え難いものであり、また、この間に育んだ友情の絆は固く、人生の宝として今日に至っています。

卒業後は、私なりの目標を持っていましたが、父は家業の木材業を継がせることに決めており、先生からの再三の説得もありましたが、速に進学をせよと、家業を継ぎ、懸命に働いた後、昭和50年には地元からの要請もあり、市議会議員に当選して、社会奉仕に邁進しました。

平成元年、近藤筑後市長が急逝され、市民の支持によって、その任を継ぐことになりました。その後3期12年間、「誠実・和・前進」をモットーに、筑後市民の皆さんが豊かさを実感できる街づくりに身を投じました。主な取り組みは以下のとおりです。

平成2年 ロッテ球場に高円宮殿下をお迎えして福岡国体野球を開催する。

平成3年 台風17号19号来襲し市民会館崩壊後、平成7年、サザンクス筑後を完成させる。

平成4年 筑後市役所内のサンコア会館に天皇、皇后陛下の行幸啓あり。市民を挙げて大歓迎で、市長として同陛下に市内の説明を申し上げ、天皇陛下と食事をご一緒した。緊張と光栄の至りで生涯忘れ得ぬ思い出となった。

平成8年 国道209号線船小屋橋架け替えを決定し、平成14年船小屋温泉大橋として完成させる。同年 近隣18市町村に呼びかけ新幹線船小屋駅設置準備会を設立。平成23年に完成し、九州新幹線全面開通となった。

その他、市民の信頼できる病院を目指し、市立病院を全面改築、八女西部こみ処理施設老朽化のため、全面建て替えを行いました。私が取り組んだ主な事業を紹介しましたが、財政、福祉の向上には常に配慮してまいりました。市政を運営する中で、その時々での解決方法や処理手段が迅速かつ適切であることが最も大切であると認識できました。在校生の皆さんはこれからの永い人生に明るい夢をもって努力し、人に喜びと希望を与える人になってほしいと心から願っています。健康を期待します。

庄山 茂子 長崎県立大学 国際情報学部教授 (博士 芸術工学)

★プロフィール

昭和55年 高32回卒業
昭和59年 福岡女子大学卒業
平成5年 奈良女子大学大学院修了
平成13年 九州芸術工科大学大学院修了
平成16年 県立長崎シーボルト大学教授
平成20年 長崎県立大学教授
平成23年 長崎県立大学大学院国際情報学専攻科長
平成25年 長崎県立大学国際情報学部長



長崎市都市景観審議会会長
長崎市屋外広告物審議会委員
長崎市男女共同参画審議会会長
人間・生活環境系学理事
日本生理人類学会評議員等 歴任

私は、色彩によって環境をよりよいものにするために、室内環境から都市空間にいたる様々な生活環境下での色彩に着目した教育・研究をしています。特に、景観色彩においては、表層的な美しさではなく、地域の歴史・文化的資源や美しい自然と調和する持続可能な景観まちづくりを目指して、行政や地域住民の皆さんとともに活動しています。

このような考えを持つようになった原点は、アメリカの社会学者のC.W.ミルズの「社会学的想像力」という言葉でした。彼は、「一人の人間の生活と、一つの社会の歴史とは、両者をともに理解することなしには、そのどちらの一つをも理解することができない」といい、個人と社会とのつながりを洞察する力としての「社会学的想像力」の必要性を述べています。現代の生活は、先人の高い志とたゆまぬ努力によるものであることを忘れてはならないというのです。

科学技術の進歩や経済の発展は、私たちの生活を豊かに便利なものにしました。一方で大気汚染、水質汚濁、地球温暖化などの環境問題をもたらす解決すべき課題が複雑化しています。今こそ、私たちは個人と社会とのつながりを洞察する力を持ち地球規模で考え行動する力をつけていかなければなりません。先人たちの偉業をいかに受け継ぎ、次世代に引き継ぐかが問われています。高校時代の主体的な学習は、これらの課題解決のための礎を築くこととなりますので、夢や目標をもって何事にも積極的に取り組んでください。

皆さんが社会で必要とされる人になられることを期待しています。

※C.W.ミルズ/鈴木広訳(1965) 社会学的想像力、紀伊国屋書店

部活動実績

祝 全国大会出場

◎弁論部
第38回全国高等学校総合文化祭弁論部門
第60回全国科学大会旗全国高等学校
弁論大会
7月29日～30日
(於 茨城県)

溝上 賢史郎
(2年 東山中出身)



◎第11回日本の次世代リーダー塾
福岡県代表
牛嶋 友啓 (2年 立花中出身)

祝 九州大会出場

◎水泳部
全九州高等学校水泳競技大会
7月19日～21日 (於 佐賀県)
吉岡 莉帆 (1年 筑後中出身)
400m個人メドレー 7位(県大会)
200m個人メドレー 8位(県大会)

祝 南部ブロック大会優勝

◎陸上競技部
第67回全国高等学校陸上競技対校選手権大会福岡県南部ブロック大会
走り高跳び 優勝
吉武 美友 (3年 筑後北中出身)

◎卓球部
福岡県高等学校総合体育大会卓球選手権大会兼全九州・全国高等学校総合体育大会南部ブロック予選
女子個人 優勝
岡山 結季乃 (2年 瀬高中出身)

祝 県大会出場

剣道部、弓道部、男女バスケットボール部、ソフトテニス部、陸上競技部、柔道部、水泳部、卓球部、放送部

八女高だより

平成26年度

第1号

<7月18日発行>

福岡県立八女高等学校

校長 内田 武文

編集 企画広報課

【本号の内容】

- ・祝入学
- ・阿蘇研修
- ・英語教員指導力向上事業
- ・祝全国大会出場
- ・大運動会
- ・OB紹介
- ・立志源泉録

伝統を踏まえ伝統を超える

さつそう
颯爽

～大地を鳴らす、勇駆の響～

猛暑。まさに今年は、この言葉通りの日々が続きました。体調不良や思い通りに練習ができないことなど様々な困難があり、多くの生徒が体力的にも精神的にも疲労を感じていたと思います。しかし、毎日、セクション長を中心として試行錯誤を行い、全校生徒が更なる高みを目指して果敢な挑戦をしたことで、私たちの結びつきはより強くなっていました。そして、本番当日。そこには、当日になってもなお、高みを目指し成長を続ける八女高生の姿がありました。テーマ通り、八女高生の爽やかさや勇ましさをその場にいた全員が感じることができました。

この大運動会を成功させるにあたって、指導して下さった先生方や、温かく見守り支えて下さった地域の方々、本当にありがとうございました。私たちは今回の結びつきを大切にし、更なる高みを目指していきます。

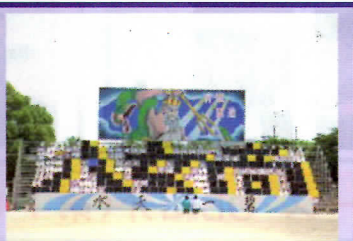
大運動会実行委員長 鴻江俊之(3年 見崎中出身)



赤応コン



白応コン



青応コン



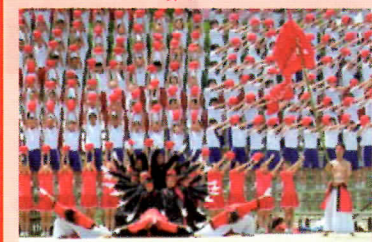
赤チア



白チア



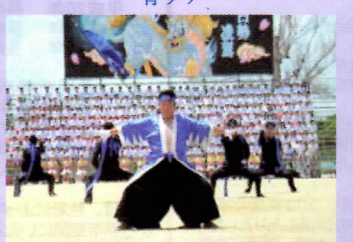
青チア



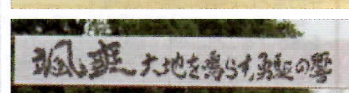
赤応援団



白応援団



青応援団



立志源泉録 (りっしげんせんろく) シリーズ第7回

このコーナーでは10回シリーズで八女高出身の偉人にスポットを当て、お一人ずつ紹介します。タイトルの立志源泉録とは、本校百周年記念誌の表題よりとったものです。

角 誠之助 (中学33回卒)

昭和3年 八女郡八幡村 (現八女市) 生まれ

九大名誉教授 (専門は航空宇宙学、構造強度・振動学) 宇宙飛行士、若田光一さんの恩師

八女中を卒業後、第五高校から、九大応用力学科 (現航空工学科) を経て昭和30年同大学院修了。昭和31年九大応用力学研究所助手、大阪府立大助教授、同45年九大助教授、53年同教授となる。平成2年には、「最新材料力学」を出版している。平成4年に退官し、九大名誉教授となる。同年に、久留米工大教授から同大学長職務代理となり、平成11年に退職した。専門分野は航空宇宙学、構造強度・振動学である。日本宇宙学会、宇宙開発事業団等の委員を歴任。従四位勲三等旭日中を受賞。平成12年7月1日、福岡市中央区で死去。71歳。宇宙飛行士、若田光一さんは自慢の門下生であり、若田さんも「航空工学科の強度振動研究室に入りました。そこで恩師、角誠之助教授に大変お世話になりました」(九大広報28号より)と語っている。

平成26年度上半期
八女高ボスター完成!

なりたい自分は
ここで見つける

情熱 感動 八女高校!

福岡県立八女高等学校
～百年の伝統と新たな挑戦～

〒814-0292 福岡県八女市大字八女1-1-1
TEL 0942-53-4184 FAX 0942-52-0341